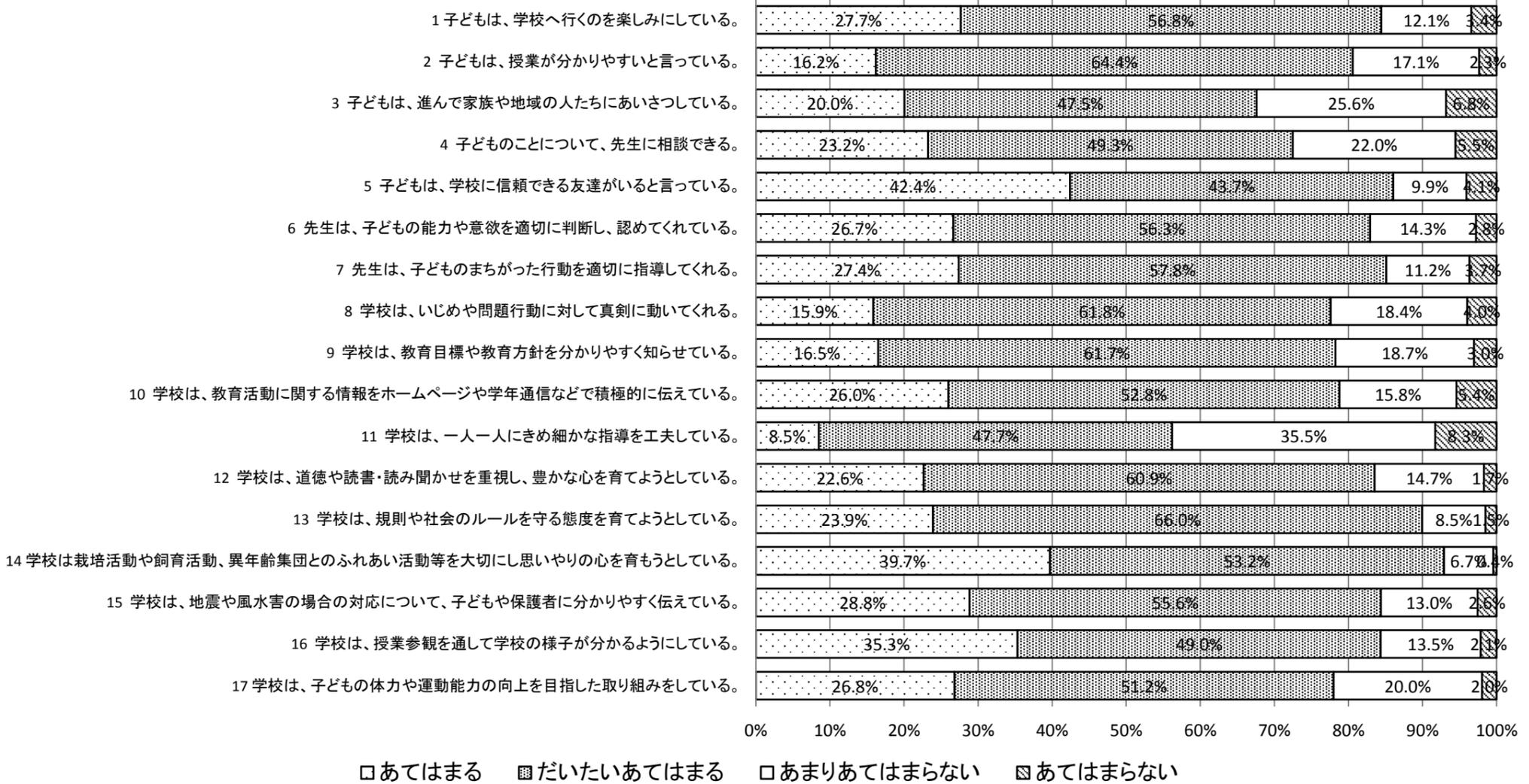


令和元年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について 令和2年3月19日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力有り難うございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できるところから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

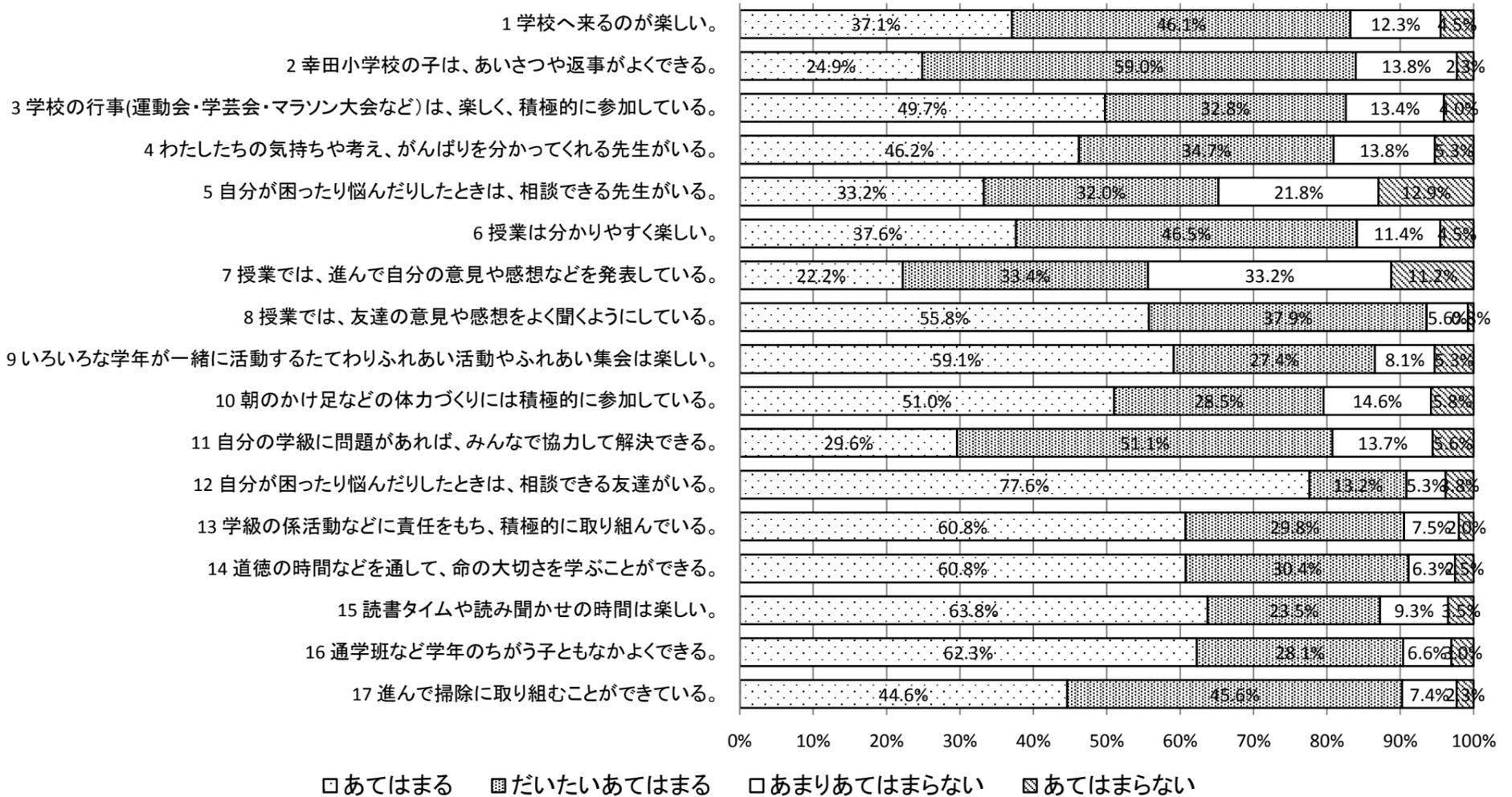
1 集計結果一覧グラフ（保護者）

令和元年度学校教育診断アンケート(保護者)集計結果 令和元年12月実施



2 集計結果一覧グラフ（4～6年児童）

令和元年度学校教育診断アンケート(児童)集計結果 令和元年12月実施



3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ () 内の数値は、昨年度との比較

楽しい学校生活

「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている(保護者)」「1 学校へ来るのが楽しい(児童)」と答えている保護者・児童は85%程度あります。反面、15%の児童、保護者は何らかの不安を抱えていることが分かります。授業や学校行事を通して学校生活が楽しいものになるよう引き続き取り組んでいくとともに、一人一人の個性が発揮できるように努めていきたいと思ひます。

学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は80.6%(+0.9%)、「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は84.1%(-4.5%)と、児童については昨年度より減少したものの概ね高い割合となっています。また「8 授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童が93.6%(-2.3%)と引き続き聞く姿勢が大変よく身につけていることが分かります。反面「7 授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は55.6%(-9.1%)で、昨年度よりさらに低い割合となっています。ペアやグループ等、話し合いの形態をさらに工夫することによって、児童が自分の考えを自信をもって表現できるように支援していきたいと思ひます。「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は56.2%(+1.7%)と、昨年度より増加しましたが、全体的には低い割合となっています。指導方法を見直し、今まで以上にていねいな子ども理解と個別指導に努めていきたいと思ひます。

また、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を分析し、次のような取り組みを続けてきました。

- <国語>
 - 漢字の書き取り練習を継続して続けている。
 - 友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたり、共通点や相違点を意識して自分の考えをまとめたり書いたりする活動を増やしている。
 - ペア、グループそして全体と、さまざまな形態で話し合いの場を設定し、かわり合いを工夫することによって、児童が自分の考えを広げたり、深めたりできるように支援する。
- <算数>
 - 出した解答の確かめをしっかりとするとともに、ドリルやプリント等の間違い直しを確実にしている。
 - 説明の際は、理由や根拠を示して、理論的かつ相手に分かりやすく伝えることができるようにしている。
- <家での生活等>
 - 決められた内容の宿題をほぼ毎日出すことによって、家庭での学習習慣が身に付くように支援する。
 - テスト前に内容を予告し、それに備えて学習することを復習の機会とすることで、漢字や計算の力の定着を図る。

基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は83.9%(-6.7%)と昨年度より減少となりましたが、意識としては高いといえます。減少したのは、児童会が中心となって全校のあいさつを見直し、さらにレベルアップしようと声かけをしてきた結果、子ども達自身が厳しめに自己評価したと思われる。一方「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は67.6%(-0.5%)であることから、地域でのあいさつに課題が残るといえます。今後さらに、登下校中や地域でのあいさつに対する児童の意識を高め、校外でも自然にあいさつのできる児童を育てていきたいと思ひます。

一人一人を大切にされた教育活動・いじめへの対応

「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は72.5%(+0.4%)、「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は65.2%(-5.5%)で、児童については減少しています。また「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は90.8%(+0.2%)と高い割合になっています。この結果をしっかりと受け止め、児童が悩みや苦しみを一人で

抱え込むことなく、気軽に相談できる学校の雰囲気作りや体制作りを努めていきたいと思ひます。

「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は82.9%(+0.1%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は80.9%(-8.3%)でした。認められていない、分かってもらえていないと感じている児童が少なからずいることが分かります。児童一人一人の良いところを見つけ、ほめて認める指導を大切にすることで、児童の自己肯定感を伸ばしていきたいと思ひます。

「8 学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が77.6%(+8.0%)と、昨年度より随分増加しています。今後もいじめのアンケートや個別面談の実施、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会の実施等、これまでの活動を着実に続けていきたいと思ひます。また、日常生活における児童の様子の変化にいち早く気づき、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりに努めていきたいと思ひます。

開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は、78.3%(+3.4%)と2年連続増加、5年前と比較すると10%の増加となっていますが、まだまだ十分とはいえません。4月当初に教育計画全般について保護者にお伝えするために、教育計画書を配付しました。今後も、ホームページや通信等で学校の教育活動をお伝えする機会を増やし、保護者のより一層のご理解とご協力を得られるよう努力をしていきたいと思ひます。

心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は83.5%(-1.8%)となっています。また、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は87.3%(-2.5%)とやや減少したものの、読書や読み聞かせの時間を楽しみにしていることが結果に表れています。引き続き、教育活動全般を通して、児童の心を耕し、感性を磨いていきたいと思ひます。

「17 進んで掃除に取り組むことができている。(児童)」と回答している児童が90.3%(-1.3%)、「13 学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。(児童)」と回答している児童が90.5%(-2.4%)と割合として高く、学級内において児童一人一人が役割を持ち、責任を果たしていることも結果として出ています。しかし、「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。(児童)」と回答した児童は、80.8%(-3.9%)と低い割合になっています。教師の見守りのもと児童が自分たちで問題を解決していけるたくまさを育てたいと思ひます。

「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動やふれあい集会は楽しい」と答えた児童は86.5%(+0.5%)と高い割合となっています。児童会が中心となって、集会やふれあい活動等、異年齢集団のかかわりを大事にしてきた成果といえます。「16 通学班などの学年のちがう子どもなかよくできる」と回答した児童も90.4%(-0.2%)と、昨年度同様の高い割合となりました。今後も、通学班等の日常の活動において良好な人間関係を保つための適切な指導と支援を続けていきます。

体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は、78.0%(-2.5%)と昨年度より減少しました。また、「10 朝のかけ足などの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も、79.5%(-8.1%)と昨年度より大幅に減少しています。今後も継続して、体力づくりの時間と場所を充実させ、児童の体力向上に努めていきたいと思ひます。